

コラム：学術情報流通にまつわる諸話題（その2）

(p.59 より)

(3) 粗悪な学術誌：ハゲタカジャーナル(Predatory journal)

OA 学術誌を標榜しているものの、ずさんな査読で単に APC を得ることを目的とした学術誌を意味します。実績の欲しい研究者の弱みにつけこんだ商法であり、投稿先を選択する際には十分な注意が必要です。新聞で国内大学の投稿状況が記事にされたため大きな問題となっており、本学でも注意喚起が行われました。投稿した後に粗悪な学術誌だと判明し、取り下げ要請をしたけれども受け入れられないため、定評ある他誌への再投稿もできずに泣き寝入りするしかないといったケースもあるようです。同様に粗悪な国際学会もあり注意が必要です。

投稿先の判断に迷う場合には、Web of Science(本書 1.3)や Scopus(本書 1.4)、そして DOAJ(Directory of Open Access Journals)といった、収録する学術誌に基準を設け選定しているデータベースで検索できるかどうかを参考にしてください。また、学術出版の業界団体が製作した以下のサイトのチェックポイントも参考になります。

(“Think. Check. Submit.” <http://thinkchecksubmit.org/translations/japanese/>)

(4) オープンサイエンスに関する動き

近年、論文の OA だけでなく、その研究の過程で生まれた研究データも公開するオープンデータという考え方や、それにより研究活動全体をオープンにするオープンサイエンスという考え方が広がってきました。研究データを公開することは捏造やデータ改ざんといった研究不正を防止するだけでなく、そのデータを用いて新たな研究が生まれることも期待されます。

しかし、研究データを公開するにはその前に研究データを適切に管理する必要があります。文部科学省が 2014 年に「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」を出した後、各研究助成機関もデータ管理計画の提出を求めるようになり、データ管理の必要性が高まってきました。本学も 2016 年に「東北大学における公正な研究推進のための研究データ等の保存及び管理に関する指針」(<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kenkyo/fb/rules.html>)を出しており、金属材料研究所としても「東北大学金属材料研究所における研究データ等の保存・管理に関する実施要領」(<http://www.imr.tohoku.ac.jp/ja/research/fair/research-prevention/>)を定めていますので、今後のオープンサイエンスによる研究の活性化に繋げるためにも研究データの適切な管理を心がけてください。